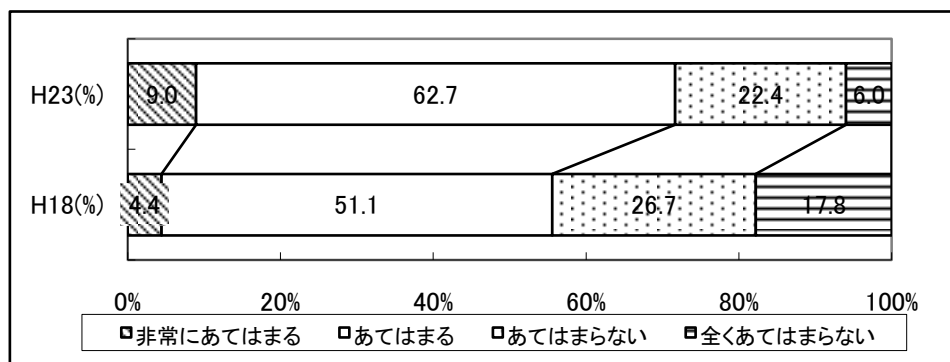


〈学部卒業生〉

Q54 大学の教育にまとまりがあり、一貫性があった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	2	6
あてはまる	23	42
あてはまらない	12	15
全くあてはまらない	8	4
計	45	67

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	4.4	9.0
あてはまる	51.1	62.7
あてはまらない	26.7	22.4
全くあてはまらない	17.8	6.0
計	100.0	100.0



【自由記載】

一貫性を感じたことはあまりない。3人

【評価と今後の対策】

大学の教育にまとまりがあると回答したのは平成18年と比較してかなり増加が見られ72%であった。しかし、教員個々人ばらばらという声や、養護教諭1種についてはまとまりがないとの声があった。

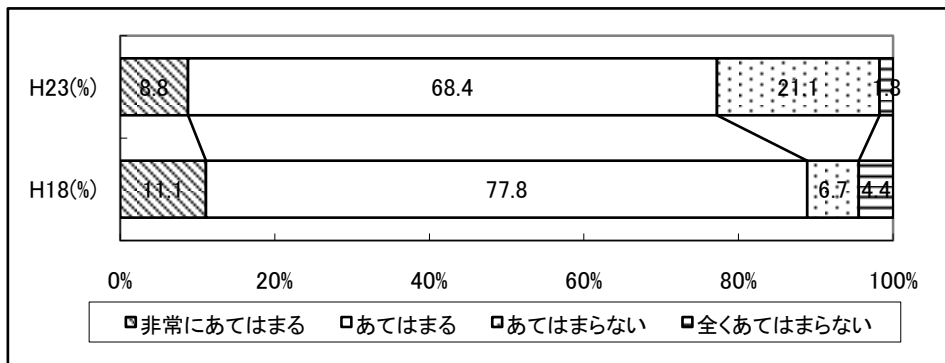
養護教諭1種についてはカリキュラムが十分でなかったことから、養護教諭志望の学生に対しては一貫性のなさの印象を与えた。平成23年度には教育方針を看護職養成と明確にしカリキュラム改正を行ったことから、養護教諭関係科目に関する矛盾は解消したと考える。その結果については追跡が必要である。

〈学部卒業生〉

Q55 基本科目に満足していた

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	5	5
あてはまる	35	39
あてはまらない	3	12
全くあてはまらない	2	1
計	45	57

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	11.1	8.8
あてはまる	77.8	68.4
あてはまらない	6.7	21.1
全くあてはまらない	4.4	1.8
計	100.0	100.0



【自由記載】

選択できる科目がもっとあればよかったと思う  
看護師として職に就いた時に役に立ったと感じなかった  
哲学の授業は先生にもよるだろうが魅力なし。ただ眠かった。  
科学などの必要性がわからなかった。

【評価と今後の対策】

基本科目への満足は平成18年度と比較しかなり減少が見られ、8割未満となった。選択肢の少なさ、内容、看護との関連性への不満がみられた。

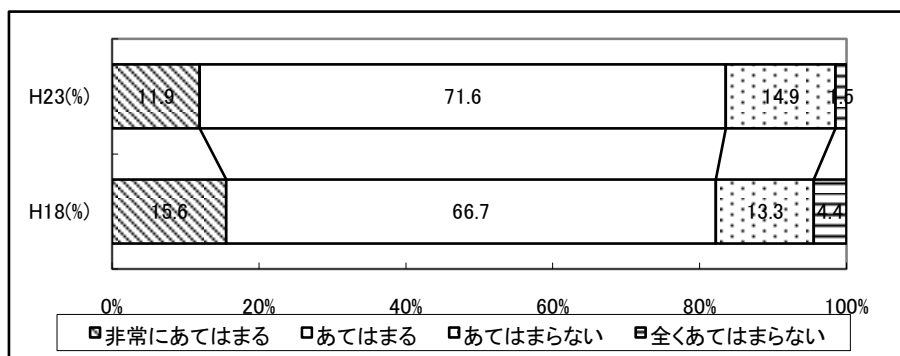
平成23年度からカリキュラム改正を行ったが、その結果が得られるには時期尚早であり、今後追跡する必要がある。

〈学部卒業生〉

Q56 専門支持科目または関連科目に満足していた

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	7	8
あてはまる	30	48
あてはまらない	6	10
全くあてはまらない	2	1
計	45	67

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	15.6	11.9
あてはまる	66.7	71.6
あてはまらない	13.3	14.9
全くあてはまらない	4.4	1.5
計	100.0	100.0



【自由記載】

看護師として職に就いた時に役に立ったと感じなかった

【評価と今後の対策】

専門支持科目への満足は平成18年度と比較しわずかに増加が見られ84%であった。しかし、非常に満足との回答が減少しており、医学系科目の時間数の不足や看護職についた時に役だったという実感のなさを挙げていた。

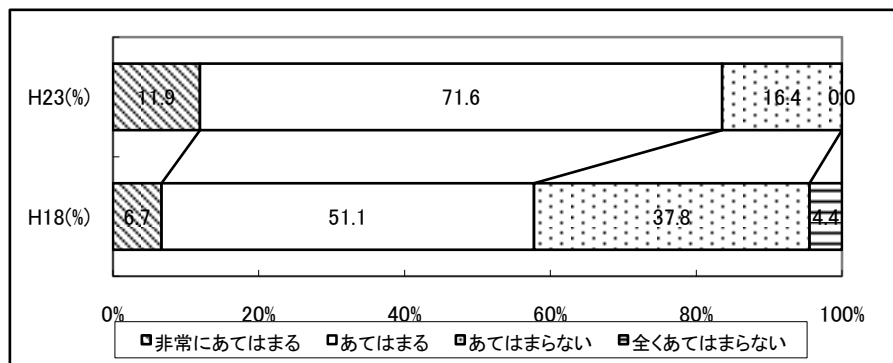
平成23年度からカリキュラム改正を行ったが、その結果が得られるには時期尚早であり、今後追跡する必要がある。

〈学部卒業生〉

Q57 専門科目講義またはコア科目講義に満足していた。

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	3	8
あてはまる	23	48
あてはまらない	17	11
全くあてはまらない	2	0
計	45	67

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	6.7	11.9
あてはまる	51.1	71.6
あてはまらない	37.8	16.4
全くあてはまらない	4.4	0.0
計	100.0	100.0



【自由記載】

【評価と今後の対策】

専門科目またはコア科目の講義への満足は平成18年度と比較しかなり増加が見られ84%であった。ほとんど意見はなかったが、ひとりのみ看護師として職についた時に役だったと感じなかったとの声があった。

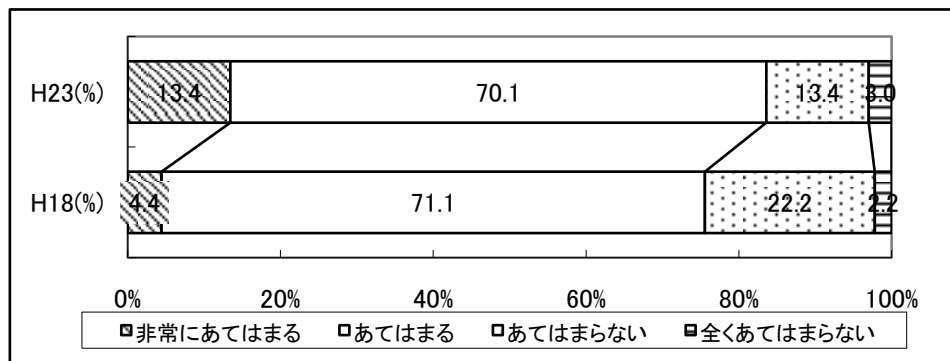
専門科目またはコア科目の講義については満足しているとの回答が26ポイントも増加しており、改善が見られる。肯定的な記述がなかったことから、その理由は不明であるが、カリキュラム改正後も継続できるように学生の声を吸い上げるシステムを検討する。

〈学部卒業生〉

Q 58 専門科目演習またはコア科目演習に満足していた

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	2	9
あてはまる	32	47
あてはまらない	10	9
全くあてはまらない	1	2
計	45	67

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	4.4	13.4
あてはまる	71.1	70.1
あてはまらない	22.2	13.4
全くあてはまらない	2.2	3.0
計	100.0	100.0



【自由記載】

演習時間が少ない。もっと実践に役立つような演習にしてほしかった。

【評価と今後の対策】

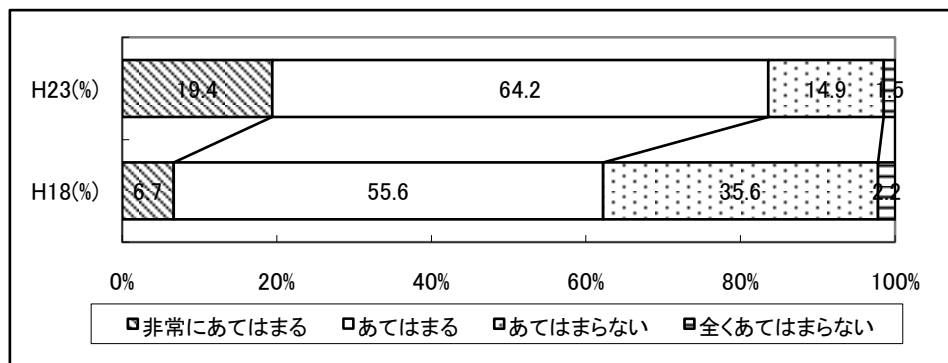
専門科目またはコア科目の演習への満足は平成18年度と比較し8ポイント増加し、84%であった。わずかなが、演習時間の少なさや実践に役立つ内容の要望があった。

平成18年度にあがったゆとりのなさ、時間延長、物品不足、教員間の指導の差、臨場感のなさなどの不満はみられなかった。もっと、現場の状況を取りいれた判断能力を養う技術教育を行う演習の検討が必要と考える。

〈学部卒業生〉  
Q59 専門科目(実習)に満足していた

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	3	13
あてはまる	25	43
あてはまらない	16	10
全くあてはまらない	1	1
計	45	67

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	6.7	19.4
あてはまる	55.6	64.2
あてはまらない	35.6	14.9
全くあてはまらない	2.2	1.5
計	100.0	100.0



【自由記載】

場所が近い方がいい

移動の補助が必要

地域実習等。学生生活で一番きつかった。先生も課題も。睡眠時間もなく、質の悪い、レポート中心の実習だった。

【評価と今後の対策】

専門科目(実習)への満足は平成18年度と比較しかなり増加し、8割を超えていた。しかし、実習施設にかかる移動の負担について、また、睡眠不足でレポート中心の実習があったことへの不満がわずかにあった。

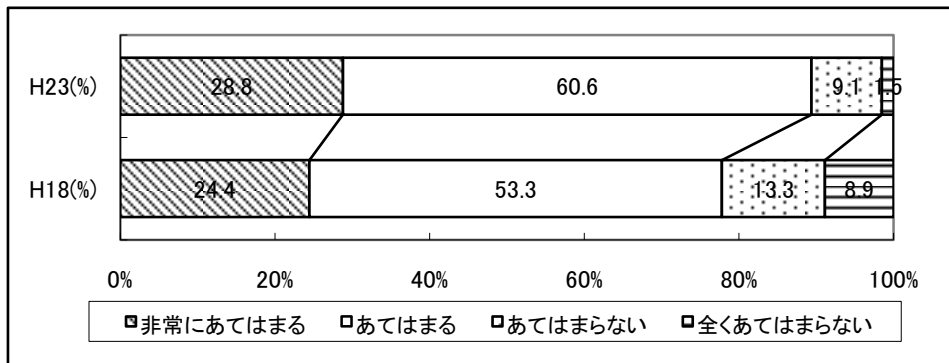
平成18年度にあがった記録物や移動への負担があった。また、実習指導教員の看護実践力・指導力を向上させるための研修プログラムの検討、実習に係る支援は継続して検討が必要である。

〈学部卒業生〉

Q60 卒業論文または助産研究に満足していた

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	11	19
あてはまる	24	40
あてはまらない	6	6
全くあてはまらない	4	1
計	45	66

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	24.4	28.8
あてはまる	53.3	60.6
あてはまらない	13.3	9.1
全くあてはまらない	8.9	1.5
計	100.0	100.0



【自由記載】

もう少し時間が欲しい

【評価と今後の対策】

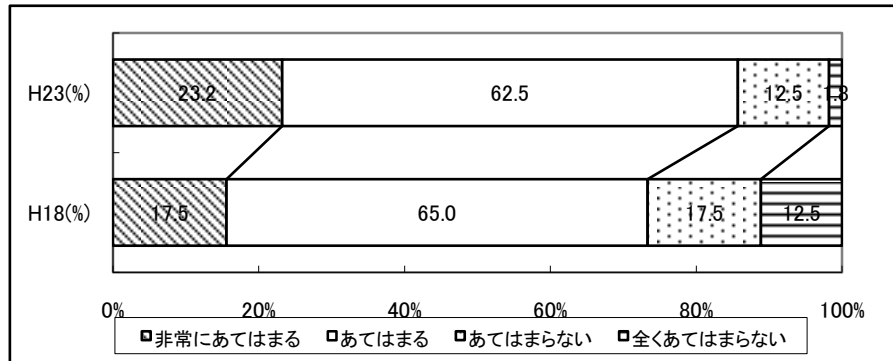
卒業論文への満足は平成18年度と比較しかなり増加し、約9割であった。しかし、もう少し時間的なゆとりを求めている。

〈学部卒業生〉

Q61 原著購読に満足していた。

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	7	13
あてはまる	26	35
あてはまらない	7	7
全くあてはまらない	5	1
計	40	56

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	17.5	23.2
あてはまる	65.0	62.5
あてはまらない	17.5	12.5
全くあてはまらない	12.5	1.8
計	112.5	100.0



【自由記載】

【評価と今後の対策】

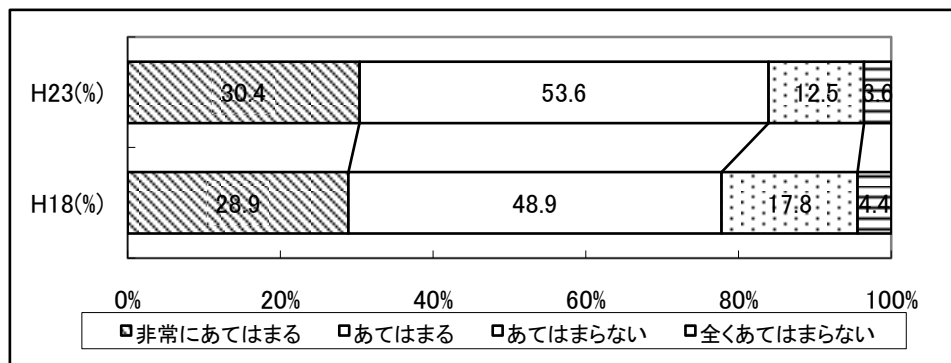
原著購読への満足は平成18年度と比較しかなり増加し86%で特に要望等は見られなかった。



〈学部卒業生〉  
Q62 統合実習に満足していた

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	13	17
あてはまる	22	30
あてはまらない	8	7
全くあてはまらない	2	2
計	45	56

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	28.9	30.4
あてはまる	48.9	53.6
あてはまらない	17.8	12.5
全くあてはまらない	4.4	3.6
計	100.0	100.0



【自由記載】

卒論や専攻に関係なくテーマを決められるようにしてほしい 2人  
統合というほどのことは出来なかったように思う。どちらかという、インターンシップ的な実習だった。

【評価と今後の対策】

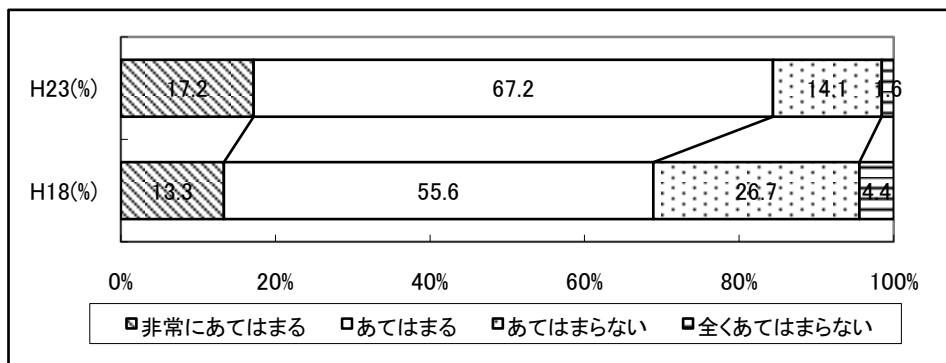
統合実習への満足は平成18年度と比較し増加して86%であった。しかし、テーマや実習場所についての不満、また、インターンシップのようだったとの声もあった。

〈学部卒業生〉

Q63 研究の導入 I・II または研究への導入に満足していた

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	6	11
あてはまる	25	43
あてはまらない	12	9
全くあてはまらない	2	1
計	45	64

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	13.3	17.2
あてはまる	55.6	67.2
あてはまらない	26.7	14.1
全くあてはまらない	4.4	1.6
計	100.0	100.0



【自由記載】

研究に生かされなかった

【評価と今後の対策】

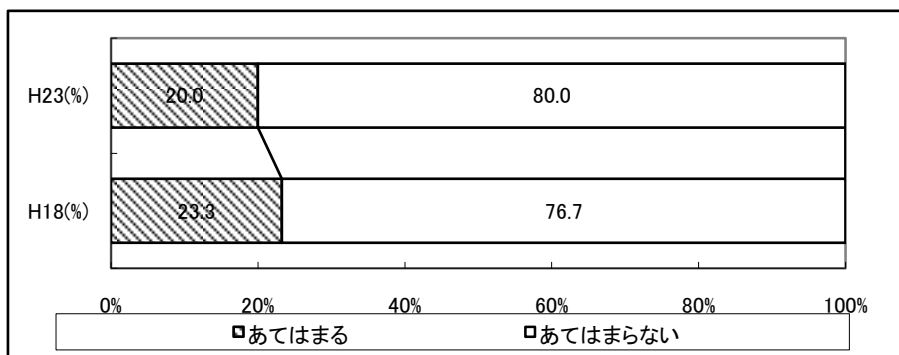
研究への導入への満足は平成18年度と比較しかなり増加し、86%であった。しかし、研究へ生かせなかったとの声もあった。

〈学部卒業生〉

Q64 不足していた科目・学習内容があった

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	10	13
あてはまらない	33	52
計	43	65

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	23.3	20.0
あてはまらない	76.7	80.0
計	100.0	100.0



【自由記載】

解剖学:解剖を実際見に行く予定(カリキュラム)が見れなかった。2人  
生化学:基本的に知っておいた方がいいかと思った。医療政策論:今後は必要な部分だと思う  
沖縄の方言について  
成人看護:フィジカルアセスメントをもっと詳しく学びたかった  
解剖生理病理:駒数が少なく、非常勤講師のため質問ができない 3人  
基礎看護:基礎看護は理解できるまで時間がかかった。  
養護実習:実際の養護教諭の仕事をもっと見たかった。

【評価と今後の対策】

不足している科目・学習内容については平成18年度と比較し減少して20%であった。しかし、解剖見学がなかったこと、基礎医学系の科目についてはコマ数の不足、講師の関係で統一した内容でなかったなどが、あがった。

また、フィジカルアセスメントや医療政策論等の科目の要望があがった。

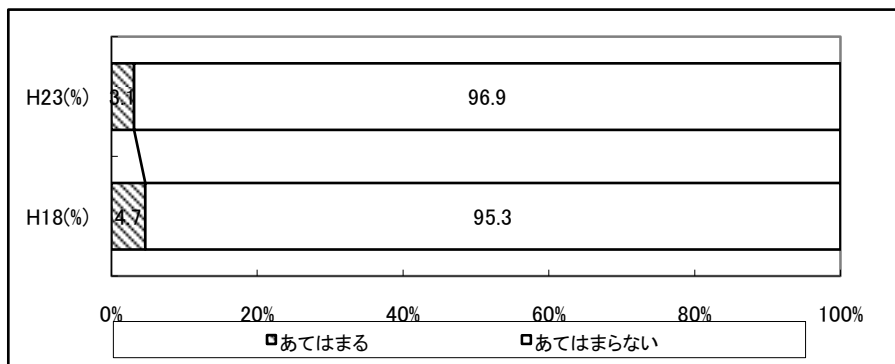
平成23年度からカリキュラム改正をしており、基礎医学系の科目、フィジカルアセスメントの科目を増やしたことから、その結果を追跡する。

〈学部卒業生〉

Q65 重複していた科目があった

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	2	2
あてはまらない	41	62
計	43	64

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	4.7	3.1
あてはまらない	95.3	96.9
計	100.0	100.0



【自由記載】

【評価と今後の対策】

重複している科目については平成18年度と比較し減少しわずかに学生のみがあるとしていたが、特に意見はなかった。

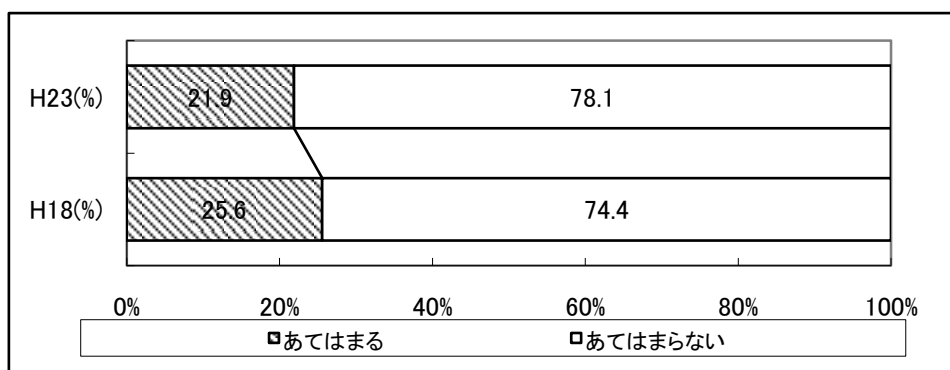
重複する科目については特に問題はないと考える。

〈学部卒業生〉

Q 66 本学の特徴として残したい科目があった

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	11	14
あてはまらない	32	50
計	43	64

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	25.6	21.9
あてはまらない	74.4	78.1
計	100.0	100.0



【自由記載】

島嶼看護: 離島の多い県なので、離島医療を学ぶ機会があった方がいいと思う。5人

老年: これはどこの場所でも生かせると思った。

離島実習: 地域の抱える現状を少しでも把握できる機会だと思うから 2人

統合実習

国際保健: 国際色豊かな沖縄の大学として特色のある授業だったので。

卒業論文: 4年生大学として必要。看護研究等で役立つ。 2人

【評価と今後の対策】

本学の特徴として残したい科目については平成18年度と比較して減少し2割程度であった。沖縄県の特徴である島嶼看護、国際保健看護、卒業論文、老年があがった。

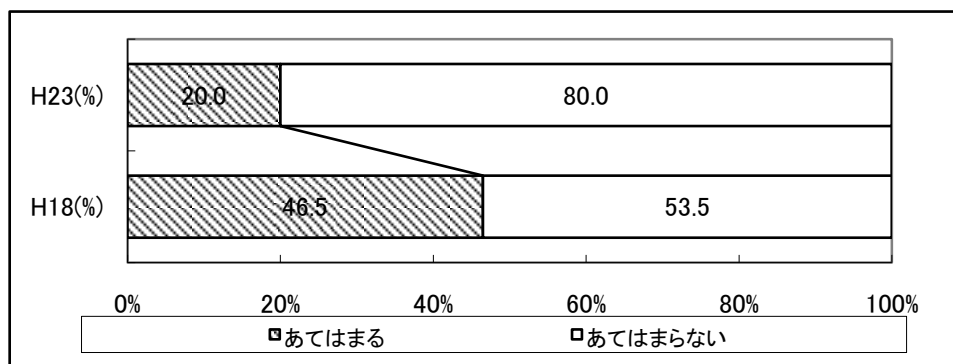
全学挙げて臨地実習をとおして島嶼看護の教育を強化しているが、学生への成果としては未だ現れていない。学生の声を吸い上げる工夫が必要である。

〈学部卒業生〉

Q67 教育方法を改善してほしい科目があった

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	20	13
あてはまらない	23	52
計	43	65

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	46.5	20.0
あてはまらない	53.5	80.0
計	100.0	100.0



【自由記載】

社会学・社会家族学: 与論島の話ばかりで、看護とのつながりを感じなかった。

危機介入: まとまりがなく印象に残っていない。

成人: 実習で教員の指導方法に一貫性がない

成人演習: 毎日の講義・演習の目的が不明瞭であった

学生への負担が大きかった。話が長く、課題も多くポイントがつかめない。

情報系: 何しているのかわからない

小児看護: 先生の教え方、内容が良くない

地域: 3年から始め、実習を4年の前期で終わらせてほしいかった。

政治学: 講師の個人的な考えを前に出しすぎ。一般論ではなかった。

助産管理: 不必要な内容があったと思う

【評価と今後の対策】

教育方法を改善してほしい科目は平成18年度と比較しかなり減少が見られ、2割であった。改善してほしい科目は社会学、危機介入、成人演習・実習、地域・地域実習、情報系、小児があった。実習については指導の統一、地域では4年前期に終了してほしいなどが上がった。また、卒論は早めに終了することの希望があった。

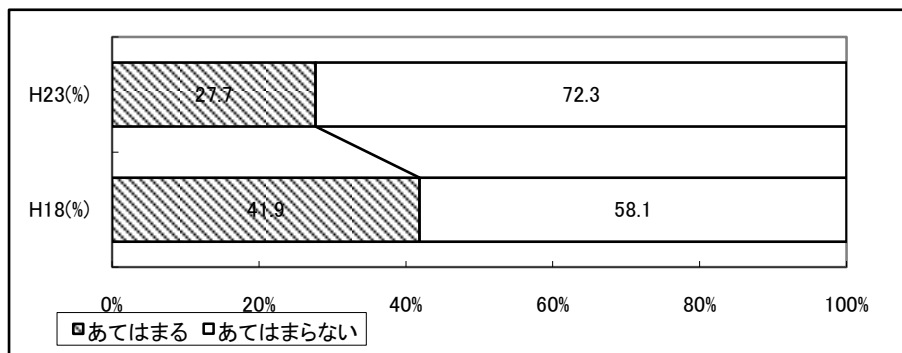
全学的に教育方法の改善ならびに他の科目の共通理解のためのFDを行う。卒論については早めに終了するよう時期を徐々に早めていることやカリキュラム改正で選択制にしたことから、その結果を追跡する。

〈学部卒業生〉

Q68 時間数を増やしてほしい科目があった

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	18	18
あてはまらない	25	47
計	43	65

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	41.9	27.7
あてはまらない	58.1	72.3
計	100.0	100.0



【自由記載】

成人看護: 技術を学ぶ(習得する)のに時間が不足していた 3人

卒業論文: 2年欲しい

看護方法などの演習: もっと技術を身につけたい

人体構造・病理: すべて押さえ切れていない 2人

病態生理: 時間がなくておおまかにしか学べなかった 3人

生体機能: 詰め込みでよくわからないまま教わって現場に出てから困った 5人

体育: あってもいいと思う。選択で。サークルとは別で。授業だと取る学生も多いと思う。

学校保健: もっと細かく学びたかった

成人保健看護方法: 臨床に行くと、外科・整形・内科基本的知識や技術が多く必要とされるため。

病理学: 明らかに内容に対して講義時間が不足していた。

母性看護実習(3年次): 日数が少なく学んだ気がしなかった

【評価と今後の対策】

時間を増やしてほしい科目は平成18年度と比較し28%に減少していた。科目は生体機能学、人体構造学、病態生理学、看護方法演習、成人保健看護・演習、母性看護実習、学校保健があがった。また、卒業論文を2年間にしてほしいとの声があった。

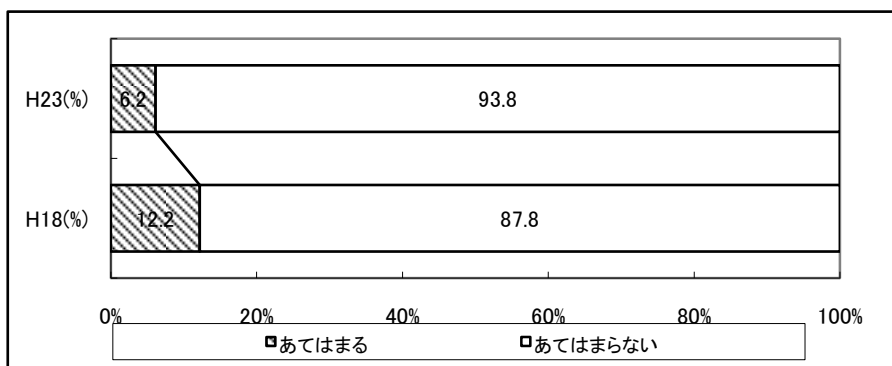
基礎医学系の科目の増加はカリキュラム改正で行っており、その結果を追跡する。他の科目もカリキュラム改正の結果をみて検討することが必要と考える。

〈学部卒業生〉

Q69 時間数を減らしてほしい科目があった

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	5	4
あてはまらない	36	61
計	41	65

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	12.2	6.2
あてはまらない	87.8	93.8
計	100.0	100.0



【自由記載】

【評価と今後の対策】

時間を減らしてほしい科目は平成18年度と比較して6%に減少し特に意見はなかった。